三島工場 CSRレポート

事業内容： 乗用車用タイヤ、レーシング用タイヤ、ライト・トラック用タイヤの製造
敷地面積： 112,000m²
従業員数： 919人（2014年4月1日現在）
所 在 地： 〒411-0832　静岡県三島市南二日町8番1号

相談・苦情などの受付窓口：
三島工場業務課　TEL：055-975-0800　FAX：055-976-4322

工場長ご挨拶

小林　一司

三島工場は、静岡県東部の伊豆半島の付け根三島市に位置し、水と緑にあふれた地域にあります。乗用車用タイヤ、ライト・トラック用タイヤを主として生産し、モータースポーツ向けのレーシング用タイヤの製造も行っております。CSR活動は企業活動の根底になる部分であり、当事業所においてもISO26000の7つの中核主題「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティーへの参画及びコミュニティーの発展」に沿った事業所のCSR課題について、それぞれの役割や運用上の具体性をかんがみ、工場方針の主要な課題を「安全」「環境」「品質」「納期・流れ」「コスト」「人財育成」として工場運営に当たっています。
「トップレベルの環境貢献企業」を目指す横浜ゴムの中核工場となるよう、すべてのステークホルダーとの信頼関係を構築できるよう取り組んでまいります。

組織統治

三島工場方針

「止まらない設備／止まらない流れで、コスト競争力を追求し続ける」ことを工場の目指す姿とし、重点課題の取り組みとしてSEQDCH（安全・防災、環境、品質、納期・流れ、コスト、人）の課題に取り組み、個別に安全・環境・品質に関してはマネジメントシステムを導入・運用しています。

汚職に関する方針

全従業員に対して、「コンプライアンス・カード」の配布による啓発と教育を実施しています。
また、基幹職、スタッフ職については、e−ランニングによる講習を実施しています。

人権

人権教育

全従業員に対して「コンプライアンス・カード」の配布による啓発と教育を実施しています。
性別・年齢・障がいの有無に関わらず雇用をしています。女性社員数39人、高齢者（60才以上）は36人、障がい者6人が在籍しています。

2013年の育児休業取得者は4人です。三島市の提唱する「家族団らんの日」を毎月2回設定し、定時退社によるライフ・ワーク・バランスに配慮した取り組みを継続しています。

労働慣行

労働安全衛生

従業員、協力社員の安全と健康の確保が企業活動の基盤であるとの認識の下に、安全、健康で快適な職場を実現するための手段として、OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証を2010年11月に取得しました。全員参加のもとで3S活動を基本とし、リスクアセスメント活動によるリスクの洗い出しから対策や改善によるリスクの軽減を図り、安全衛生活動を推進しています。

環境マネジメント

ISO14001環境マメネジメントシステムを用い、経営方針に示した「社会に対する公平さと環境との調和を大切にする。」を規範とし、環境方針を宣言しています。環境に与える負荷を低減するために、産業廃棄物の削減、温室効果ガス排出量の削減を主要な課題とし、生産工程の改善やエネルギーの無駄をなくす活動に取り組んでいます。その他の取り組みとしては、法規制対応では自主管理値を設け、自主管理値内での運用を行っています。騒音、振動、臭気など感覚公害に該当する取り組みでは、工場周辺にお住まいの住民の中から環境モニターとしてご協力をいただき、年3回の訪問時に状況報告ならびにヒヤリングを行い、改善につなげてきました。

地域コミュニケーションの取り組みの中では、週1度の工場周辺の清掃作業や、三島地区環境保全推進協議会が主催する「三島の川をきれいにする奉仕作業」「せせらぎルート清掃奉仕作業」さらには三島市立公園「楽寿園」の清掃や花の植生にも継続的に参加させていただいています。また、全社活動でもある「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトでは、工場内での植樹会のほかに、沼津市が推進する「沼津の森づくり」の苗木を2010年から引き続き贈与させていただきました。2012年度より生物多様性保全活動の取り組みとして、近隣河川である御殿川の上流、そして下流にあたる狩野川までの生物多様性調査を開始し、今後の環境保全活動に活かすべく、2013年度より生物多様性保全活動として活動を進めています。

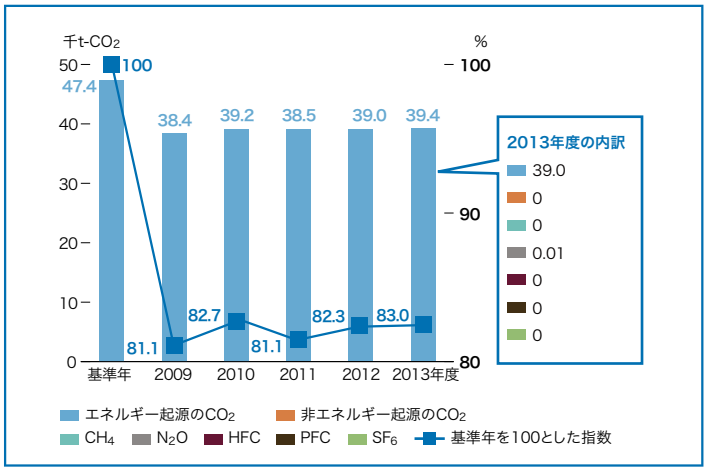
また、従業員の環境意識の向上と環境知識をより深く理解するために、東京商工会議所主催のエコ検定試験（環境社会検定試験）も、第2回より継続して監督者、スタッフ職を中心に取り組み、現在の工場在籍取得者は64人となっています。

楽寿園清掃ボランティア

環境データ

■温室効果ガス排出量の削減

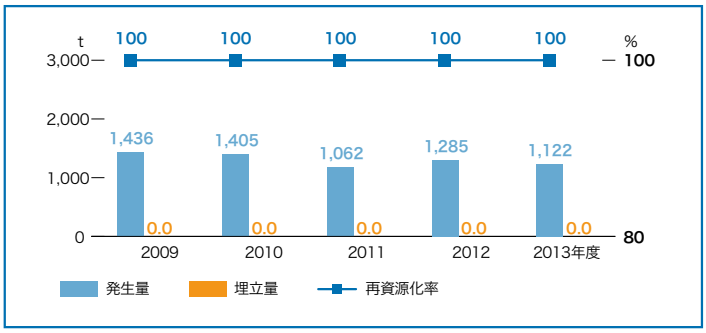
・温室効果ガス排出量



※基準年：1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF_6は1995年としています。
※温室効果ガス（GHG）の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

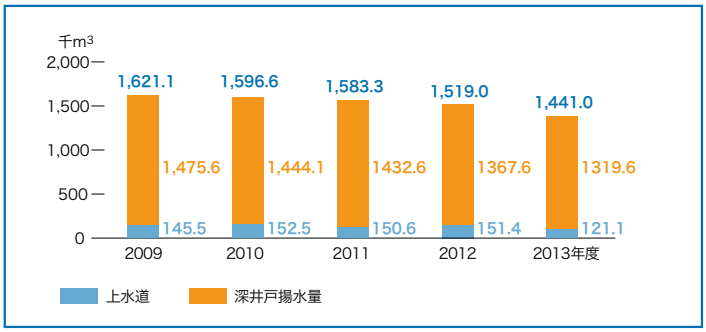
■資源の有効活用／廃棄物の削減

・廃棄物データ



・水使用量

工場用水として地下水を工場の使用量の9割を使用しています。残りは上水道です。



■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

工場で使用した工場用水は、工場内の処理施設で処理後、御殿川に放水しています。

項 目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
			平均値	最大値	最小値
PH	★5.8～8.6	6.2～8.2	7.7	7.9	7.3
BOD濃度（mg/l）	15	4以下	1.3	3.0	0.5
COD濃度（mg/l）	★120	5以下	1.4	2.9	0.8
SS濃度　（mg/l）	20	8以下	1.3	4.0	1.0未満
油分濃度　（mg/l）	2	1以下	1.0未満	1.0	1.0未満

※三島市環境保全協定、★は水質汚濁防止法に準拠（BOD規制値は最大濃度）
※排水先 御殿川

・大気汚染物質（NOx、SOx）

項 目	NOx	SOx
排出量（t /年）	15	—

施設名称	項 目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
				平均値	最大値	最小値
三島工場コージェネレーション	窒素酸化物濃度(ppm) ばいじん濃度(g/m3N)	70 0.05	23 0.001	12.7 0.001未満	17 0.001未満	8 0.001未満
三島工場ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm) ばいじん濃度(g/m3N)	130 0.1	59 0.0	37 0.001未満	42 0.001未満	32 0.001未満

※大気汚染防止法、三島市指導値に準拠

化学物質の管理状況についての報告

原材料・副資材・補助材など工場内で取り扱う化学物質は、MSDS（SDS）で第1種指定化学物質の有無を確認し、PRTR法で定められた量の取扱い物質について年1回（6月）、国（県）への報告を行っています。

(単位: t／年)

政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 VI-4※4			
					有害性ランク（人）	年間換算排出量（人）	有害性ランク（生態）	年間換算排出量（生態）
80	キシレン	1.483	1.483	0.000	C	14.830	C	14.830
155	N-(シクロヘキシルチオ)フタルイミド	16.940	0.000	0.073	D	0.000	B	0.000
205	1,3-ジフェニルグアニジン	64.080	0.000	0.279	A	0.000	C	0.000
230	N-(1,3-ジメチルブチル)-N'-フェニル-パラ-フェニレンジアミン	471.838	0.000	2.038	D	0.000	B	0.000
258	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3,3,1,1(3,7)]デカン	19.680	0.000	0.077	C	0.000	D	0.000
300	トルエン	1.199	1.199	0.000	C	11.990	D	1.199
372	N-(ターシャリーブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	82.525	0.000	0.357	B	0.000	A	0.000
20	2-アミノエタノール	0.174	0.174	0.000	B	17.400	C	1.740
53	エチルベンゼン	0.173	0.173	0.000	C	1.730	C	1.730
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0.326	0.326	0.000	C	3.264	C	3.264
438	メチルナフタレン	0.666	0.003	0.000	A	3.300	C	0.033
	総合計	659.084	3.359	2.823	—	52.514	—	22.796

※1：PRTR対象化学物質の年間取扱量が、指定量以上の場合は届出対象
※2：排出量＝大気＋公共用水域＋土壌
※3：移動量＝廃棄物－公共下水道
※4：排出量に有害性ランクを掛けて換算排出量を算定
安全性影響度評価の基準については、「国内生産拠点の安全性評価表」をご参照ください。
（http://www.yrc.co.jp/csr/data/pdf/16kokunaikyoten.pdf）

公正な事業慣行

取引先とのかかわり

協力会社で組織している「清流会」の皆さまに集まっていただき、2013年度は9月26日に第2回CSR勉強会を開催しました。

議題
- 弊社のCSR調達について
- 人権（ハラスメント）について
- 情報管理・セキュリティについて

講師：資材調達部（平塚）、コンプライアンス推進室

消費者課題

消費者とのコミュニケーション

工場見学をしていただいたお客さまに、自動車産業品質マネジメントシステム規格　ISO/TS16949認証を取得したことをご紹介しています。また、製品納入先のお客さまからの問い合せには、迅速に調査しご報告を行っています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

これまで寄せられた主な意見や苦情と対応内容

2013年度は、3月と11月に工場近隣にお住まいの方と環境モニターさま向けの工場見学会を開催しました。

地域社会とのかかわり

- 三島地区環境保全推進協議会主催の清掃奉仕作業へ、2013年度は年2回実施し、延べ92人が参加しました。
- 2013年度の事業所内にある体育館の貸し出し実績は741件あり、地域の皆さまに利用していただいています。
- 工場周辺の清掃活動は、週1回実施しています。
（工場正門～三島二日町駅周辺と工場正門～従業員駐車場周辺）
- 献血協力は年2回事業所内で実施しており、2013年度は65人が献血しました。
- 沼津市が推進する「沼津の森づくり」の植樹活動に、シイ・カシ・タブ類の常緑広葉樹の苗木を2013年11月に300本を寄贈しました。
- 「三島市みどりまつり」などへ苗木440本の無償提供を行いました。
- 2013年2月16日に開催された伊豆マラソンに、駐車場の貸出ならびに給水ボランティアや交通整理などに13人、協力しました。
- 消防団協力事業所として機能別団員を8人を三島市消防団に登録し、地域での災害時に、2013年度は2回出動しました。

沼津の森

伊豆マラソン

工場見学・説明会のご案内

2013年度は工場見学の受け入れ59件、延べ1,105人が三島工場へ来訪されました。地域の教育支援として、小学生の工場見学、中学生の職場体験学習、高校生のインターンシップなども受け入れています。

工場見学について

開 催 日	工場就業日　月曜日から金曜日まで （年末年始、5月連休、8月連休を除く）
受付時間	8：00～16：00
問合せ先	三島工場業務課　TEL：055-975-0800